



私の事を覚えてくれないおばあさん



国籍	職種	中国
実習実施者		介護
		社会福祉法人春來福祉会
監理団体		協同組合ユニバーサルワークネット

劉 晗
LIU HAN

日本に来てから、私は大勢の可愛い日本の方たちと知り合いになりました。一緒に歌を歌ったり、またある時は散歩したり。ある日、ひとりの可愛いおばあさんと出会いました。そのおばあさんは、毎日笑ったり、たくさんの歌を歌ったりします。でもおばあさんは、たまに怒ったり、機嫌が悪くなったり、悲しい事を思い出して、ふさぐことがあります。そんな時は、私はおばあさんに歌を歌ってあげます、するとすぐに私と合唱し始め、また笑顔にもなります。しかし私と一緒に合唱したはずなのに、おばあさんはすぐに私の事を忘れてしまいます。時々「私の事を覚えていますか？」とおばあさんに尋ねてみますが、いつも「ほほほ」と笑って「はい、おやつ」と答えます。やっぱりおばあさんは私の事を全然覚えてくれていませんでした。でも私はがっかりなんかしません。そして悲しくありません。何故なら、おばあさんが認知症という病気になった事を知っているからです。

2019年の冬に介護の勉強をするために、日本にやって来ました。成田に到着して、約一ヶ月の研修が終った後、特別養護老人ホームに

配属になりました。はじめは、実習指導員の方から、利用者の方の名前や起床、移乗、排泄、そして食事の介助など教えてもらいました。全て教科書で教えられた通りにするだけで精一杯でした。あれから約一年経ち、今ではほとんどの介護業務ができるようになりました。さらに、介護の仕事は、教科書通りに行動するだけではなく「おもいやり」「愛情」「忍耐」「責任感」が大切だという事にも気がつきました。

例えば、あるおばあさんは話ができないので、急に高熱が出たとしても、また辛くても、相手にそれを伝える事ができません。おばあさんが少しずつ変化していく事に注意をして、それに気がつく事が必要なのです。つまり、おもいやり。歌が好きなおばあさんの場合、職員と一緒に歌を歌い、花が好きなおじいさんの場合、満開の桜の下でおじいさんと一緒に花見をします、つまり愛情。あるおじいさんは食事が嫌いで、お茶も良く飲みません、そんな時、少しずつ食べさせてあげる、つまり忍耐。歩行が安定しないおばあさんをしっかりと見守り転倒をしないように事故を防止するのは責任感。

先日一緒に合唱した可愛いあるおばあさんが食後ベットに横になっている時、ふとした拍子から嘔吐してしまいました。その嘔吐物はおばあさんの髪の毛にもかかっていたので、それをきれにしていたら、「なんだこりや。」と言って口を尖らせて怒って、私をにらみつけました。でもそのおばあさんに腹がたたないどころか、この一年この施設で勉強してきた事で、そのおばあさんを子供のように愛らしく感じるようになりました。

「おもいやり」「愛情」「忍耐」「責任感」これからの言葉をおぼえて忘れずに勉強を続けていきたいと思っています。